

安全データシート

SDS No.1021-43100

作成日 1994年 4月11日

改訂日 2025年 3月 4日 1/5頁

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Decanoic acid
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1021-43100
整理番号(SDS No.) : 1021-43100
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分3

絵表示又はシンボル

ラベル要素



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H315

皮膚刺激

H318

重篤な眼の損傷

H412

長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

P264

取り扱い後は手をよく洗うこと。

P273

環境への放出を避けること。

P280

保護手袋/保護衣/保護めがね/保護面を着用すること。

[応急措置]

P302+P352

皮膚に付着した場合、多量の水と石けんで洗うこと。

P305+P351+P338

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P310

直ちに医師に連絡すること。

P332+P313

皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。

P362+P364

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[廃棄]

P501

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 化学物質
化学名または一般名 : Decanoic acid
慣用名または別名 : デカン酸、n-Capric acid、カプリン酸
濃度 : 99%
注記 : これらの値は製品規格値ではありません。
化学式 : C₁₀H₂₀O₂
官報公示整理番号 : 化審法 : 2-608
安衛法 : --
CAS RN : 334-48-5

4 応急処置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
- 暴露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
- 急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 蒸気吸入により、一時的な呼吸器刺激性、めまい、衰弱、疲労、悪寒や頭痛などの症状を生じる。接触により眼や皮膚の発赤、痛み、皮膚の乾燥などが生じる。誤飲により腹痛やめまいが生じる。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、蒸気/ミスト/粉じん/ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法および機材 : 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除く。密閉できる空容器に集めて適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気/ミスト/粉じん/ガスを発生させない。
使用後は容器を適切に廃棄すること。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良い場所で密閉して保管する。
- 避けるべき保管条件 : 火花、高温、スパーク、混触危険物質との接触を避ける。
- 技術的対策 : 換気のよい場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。火気厳禁。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、強酸、火源の近くに保管しない。
- 安全な容器包装材料 : ガラス等

8 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 : ー
濃度基準値

八時間濃度基準値 : ー

短時間濃度基準値 : ー

許容濃度

日本産業衛生学会 : ー

ACGIH TLV(s) : ー

保護具

呼吸器の保護具 : 防毒マスク。日本産業規格(JIS T8152)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

眼の保護具 : 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体
色 : 白色～黄褐色
臭い : 不快臭
融点/凝固点 : 32°C
沸点または初留点 : 268～270°C
可燃性 : データなし
爆発下限界及び爆発上限界 : データなし
引火点 : 150°C
自然発火点 : データなし
分解温度 : データなし
pH : データなし
動粘性率 : データなし
溶解度 : 水に難溶
溶媒に対する溶解性 : エタノール、アセトンに易溶
n-オクタノール／水分配係数
log Po/w : データなし
蒸気圧 : データなし
密度及び/または相対密度 : 0.8858
相対ガス密度(空気=1) : データなし
粒子特性 : 結晶～塊

10 安定性及び反応性

反応性 : 適切な保管条件下では安定。
化学的安定性 : 適切な保管条件下では安定。
危険有害反応可能性 : 適切な保管条件下では安定。
避けるべき条件 : 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、混触危険物質と接触。
混触危険物質 : 強酸化剤、酸性化合物
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素など

11 有害性情報

急性毒性(経口) : ラットを用いた経口投与試験のLD50値3,301 mg/kg(JECFA(1998))。
急性毒性(経皮) : ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値>5,000 mg/kg(PATY(5th, 2001))。
急性毒性(吸入：蒸気) : ラットの8時間飽和蒸気暴露で死亡はみられない(PATY(5th,2001))と記述されている。飽和蒸気圧濃度(25°C)0.0003 mg/Lから、LC50値は>0.0003 mg/L と推定される。
急性毒性(吸入：粉じん、ミスト) : データなし。

皮膚腐食性/刺激性	: ウサギの4-24時間投与試験で「moderately to severely irritating」(IUCLID(2000))と記述されている。
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	: ウサギで角膜混濁、結膜や虹彩の強い損傷がみられる(IUCLID(2000))、また、ウサギでレベル9(最高は10)の損傷、72時間後の角膜損傷はレベル10になる(HSDB(2002))と記述されている。
呼吸器感受性	: データなし。
皮膚感受性	: ヒトに対するパッチテストで皮膚感受性はみられない(PATTY(5th,2001)、IUCLID(2000))、20匹のモルモットを用いたBuehler試験で皮膚感受性を示さない(IUCLID(2000))との記述。
生殖細胞変異原性	: in vitro の細菌を用いたAmes試験で陰性(PATTY(5th,2001)、NTP DB(Access on September 2008))と記述されているが、in vivo試験のデータがない。
発がん性	: ラットを用いた経口投与試験において発がん性の証拠は報告されていない(PATTY(5th, 2001))と記述されており、主要な国際的評価機関による評価もなされていない。
生殖毒性	: データなし。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ラットを用いた経口投与試験で過度の流涎や下痢、さらに高投与量(10,000 mg/kg)で神経筋制御の減退、中枢神経系の抑制がみられる(IUCLID(2000))と記述されているが、区分2のガイダンス値を超える投与量での症状である。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ラットを用いた150日間経口投与試験において、胃への影響はみられない(PATTY(5th, 2001))、また、イヌを用いた102日間経口投与試験において、内臓重量、肝臓、腎臓への影響はみられない(IUCLID(2000))と記述されている。
誤えん有害性	: データなし。
1 2 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性) (デカン酸)	: (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。 藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間EC50 = 12mg/L(環境庁生態影響試験, 1998)。
水生環境有害性 長期(慢性) (デカン酸)	: (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。 急性毒性区分3であり、急速分解性に関するデータがなく、生物蓄積性がある(LogKow = 4.09(PHYSPROP Database, 2008))と推定される。
生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: 生物蓄積性がある(LogKow = 4.09(PHYSPROP Database, 2008))と推定される。
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
1 3 廃棄上の注意	
残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
1 4 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	: IMOの規定に従う。
UN No.	: Not applicable
Marine Pollutant	: Not applicable
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	: Not applicable
国内規制	
陸上規制	: 国内法令の規定に従う。
海上規制	: 船舶安全法の規定に従う。
国連番号	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
国連番号	: 非該当
緊急時応急措置指針番号	: 非該当

1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 施行令第18条第2号～第3号別表第2 No.1241(デカン酸) 【令和7年4月1日以降 該当】 皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第594条の2)
化管法	: 非該当
化審法	: 既存物質
消防法	: 指定可燃物、可燃性固体類(法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4)
船舶安全法(危規則)	: 非該当
航空法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(X類物質)(施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 非該当
大気汚染防止法	: 非該当
土壤汚染対策法	: 非該当
廃掃法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第64版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。